

2022年6月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年8月10日

上場会社名 KeePer技研株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 6036 URL https://keepergiken.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)賀来 聡介  
 問合せ先責任者 (役職名)総務部 次長 (氏名)伊東 真志 (TEL) 0562-45-5258  
 定時株主総会開催予定日 2022年9月27日 配当支払開始予定日 2022年9月8日  
 有価証券報告書提出予定日 2022年9月28日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年6月期の業績(2021年7月1日~2022年6月30日)

(1) 経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期	14,358	21.7	4,326	43.2	4,325	43.1	3,093	45.0
2021年6月期	11,801	35.7	3,021	121.0	3,022	120.0	2,133	133.6

  

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年6月期	113.41	—	45.5	41.1	30.1
2021年6月期	75.65	—	37.4	34.1	25.6

(参考) 持分法投資損益 2022年6月期 ー百万円 2021年6月期 ー百万円

(注) 1 2021年6月期及び2022年6月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しておりますが、影響が軽微であることから、当該基準等を適用する前の実績値に対する増減率を記載しております。

3 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年6月期	11,858	8,039	67.8	294.71
2021年6月期	9,186	5,566	60.6	204.05

(参考) 自己資本 2022年6月期 8,039百万円 2021年6月期 5,566百万円

(注) 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年6月期	3,221	△1,349	△669	2,721
2021年6月期	3,093	△739	△2,731	1,517

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年6月期	—	0.00	—	20.00	20.00	545	26.4	9.7
2022年6月期	—	0.00	—	31.00	31.00	845	27.3	12.4
2023年6月期(予想)	—	0.00	—	40.00	40.00		28.7	

3. 2023年6月期の業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,713	19.3	3,050	31.7	3,050	30.9	2,124	31.8	77.89
通期	17,237	20.1	5,463	26.3	5,463	26.3	3,805	23.0	139.49

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年6月期	28,280,840 株	2021年6月期	28,280,840 株
② 期末自己株式数	2022年6月期	1,000,516 株	2021年6月期	1,000,394 株
③ 期中平均株式数	2022年6月期	27,280,409 株	2021年6月期	28,198,514 株

(注) 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P7「1.経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご参照下さい。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	6
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	6
(4) 今後の見通し .....	7
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	9
3. 財務諸表及び主な注記 .....	10
(1) 貸借対照表 .....	10
(2) 損益計算書 .....	12
(3) 株主資本等変動計算書 .....	14
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	16
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	17
(継続企業の前提に関する注記) .....	17
(会計方針の変更) .....	17
(セグメント情報等) .....	17
(持分法損益等) .....	20
(1株当たり情報) .....	21
(重要な後発事象) .....	21

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当事業年度(2021年7月1日から2022年6月30日)における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症対策として実施された、まん延防止等重点措置が、2022年3月には解除され、景気の好転が見込める状況になったものの、ウクライナ情勢等の影響による原材料価格や金融市場の変動により、引き続き先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社では、ユーザーに提供されるKeePerコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えています。

#### 【第1四半期】

第1四半期会計期間(2021年7月から2021年9月)におきましては、7月上旬より、芸能人やモータージャーナリストなどの有名人がYouTube動画を公開された反響が大きく、スタートダッシュに成功し、売上高は32億61百万円(前年同期比19.9%増加)、営業利益は7億98百万円(同12.2%増加)の増収増益となりました。

#### 【第2四半期】

第2四半期会計期間(2021年10月から2021年12月)におきましては、引続きYouTubeなど、SNSでの高い評価を見て、施工台数が増加しました。特に最需要期である12月においては、「EXキーパー」や「ダイヤモンドキーパーシリーズ」の高単価・高付加価値のメニューを選ばれる方が、新車・既販車共に大きく増加しました。売上高40億40百万円(前年同期比15.3%増加)、営業利益15億18百万円(同37.3%増加)と大幅な増収増益となりました。

#### 【第3四半期】

続く、第3四半期会計期間(2022年1月から2022年3月)におきましては、カーコーティングや洗車に関わる事業において、例年1月～2月は需要が低くなる時期ですが、KeePerの認知度と信頼が格段に上がったことによって、新車へのコーティング施工が大幅に増加した事もあり、十分な営業利益が出せるようになりました。また、車が一番販売される3月においては、むしろ需要期のような実績となりました。売上高31億17百万円(前年同期比27.7%増加)、営業利益7億77百万円(同57.4%増加)の増収増益となりました。

#### 【第4四半期】

直近の、第4四半期会計期間(2022年4月から2022年6月)におきましては、約3年ぶりに、コロナ規制のない春という事もあり、車でお出かけをする方も多く、ゴールデンウィーク前後、期間中も含め大きな賑わいを見せました。さらに、5月下旬からは『カンブリア宮殿』に取り上げられた反響が凄く、施工台数がさらに積み上がりました。売上高39億38百万円(前年同期比25.6%増加)、営業利益12億32百万円(同73.4%増加)の大幅な増収増益となりました。

この1年間での四半期ごとの営業利益の前年同期比進捗を見てみると、

第1四半期(前年同期比12.2%増加)

第2四半期(前年同期比37.3%増加)

第3四半期(前年同期比57.4%増加)

第4四半期(前年同期比73.4%増加)

と、右肩上がりに加速がかかり、大幅に上昇していることがわかります。

このように、KeePerの需要増はとどまることはなく、KeePerの高評価を「ユーチューブで見て」や「SNSでの評価を見て」そして、「家族や友人に聞いて」の口コミでの施工が、各店舗で新車及び既販車ともに施工台数が上昇し続けております。

さらに、5月26日に放映された『カンブリア宮殿』の反響がとても大きく、全国のキーパープロショップやキーパーラボ、KeePer取扱いの新車販売会社にも、お問い合わせや施工が多い状態が今もなお続いています。

特に、番組内で取り上げられていた『クリスタルキーパー』を希望されるお客様が多い傾向にあります。また、「他にどんなコーティングがあるのか？」や「初めて、コーティングをかけるので、色々話を聞きたい」など、新規ご来店の大きなきっかけとなっております。そして、この効果は2週間ぐらいで薄れるという話を聞いていたのですが、欲求商品

でもあるコーティングにおいてだからなのか、今だに効果があることから、今後も高需要が続いていくと予想しております。

### 【通期】

その結果、当事業年度(2021年7月から2022年6月)における売上高は143億58百万円(前年同期比21.7%増加)、営業利益は43億26百万円(同43.2%増加)、経常利益は43億25百万円(同43.1%増加)、当期純利益は30億93百万円(同45.0%増加)と大幅な増収増益となり、過去最高益を更新する事が出来ました。

### 【キーパー製品等関連事業】

当事業における最も大きなシェアを占めている石油販売業界は、新型コロナウイルス感染症の拡散の外出制限が解除されたものの、原油価格高騰による店頭小売価格が高騰し、全国的に来店頻度が減っております。しかし、この業界においてもKeePerの需要は非常に高く、特にダイヤモンドキーパー以上の高付加価値のコーティングの施工台数が伸びております。

そして、2021年11月より、キーパープロショップ用にカスタマイズした「Web予約システム」が、稼働開始となりました。現在ではキーパープロショップの約3,000店舗が利用しており、予約数は着実に上向きとなってきております。しかし、キーパープロショップ店舗では、既に導入済みの予約サイトを稼働させている店舗も多くあり、2つの予約サイトを同時に運用するには、予約管理が煩雑になるという事で、導入を見合わせている店舗も多くある為、キーパープロショップでの利用が多い他の予約サイト(3社)とのシステムの連携を進め、店舗の利便性を向上させていきます。

また、2022年1月より、新サービス『ECOプラスダイヤモンドキーパー(以下、ECOダイヤ)』の発売開始をしました。『雨が降ったら、まるで洗車をしたようにキレイになるのでお手入れがすごくラクになりました』の商品のキャッチコピーでも書かれている通り、自然の雨が洗車になる効果が、環境問題が大きくクローズアップされる現代において、洗車も手間を省くと共に、大きな節水効果と洗剤の使用を減らしSDDsにも貢献出来ることが、お客様からも大きな支持をいただいております。そして、ダイヤモンドキーパーの施工技術と施工環境があれば施工が可能で、全国のキーパープロショップからも好評であり、今後の『エコ効果のある』コーティングが、KeePerの新たな軸になる、コーティングサービスとなっていきそうです。

さらに、5月31日から進行中の「第7回 2022年キーパー技術コンテスト」が3年ぶりの開催という事もあり、全国で3,300名以上の技術者からのエントリーがあるなど、コンテストが大きな盛り上がりを見せております。今後は、9月中に県別チャンピオン決定戦を行い、各県チャンピオンが誕生し、10月13、14日に全日本チャンピオン決定戦を行い、日本一KeePerが上手い技術者が誕生します。また、その模様は、テレビ取材(3局予定)が入る予定となっております。この盛り上がりは、間違いなく全国のKeePer施工者の技術力向上に繋がり、ユーザーに提供されるKeePerコーティングの品質の維持向上に繋がるものと確信しております。

新車マーケットにおいては、新型コロナウイルスによる世界的な半導体不足の影響に加え、ウクライナ情勢も加わり、新車製造が大幅に遅れ、納車も遅れており、コーティング施工が先延ばしとなっております。しかし、そんな中でも、スバル純正の『SUBARU WダイヤモンドKeePer』は、お客様からの指名買いも増えており、ディーラー営業マンにとってもクレームがない品質が高いKeePerは、自信をもってオススメする事が出来る為、コーティング付帯率が1年を通して約20%まで上昇してきました。

そして、2021年9月より、トヨタ販売社向けの発売を開始した、KeePerボディーコート、現在の全国のトヨタ関連の販売会社247社への導入の進捗状況は、

- ・7月31日現在、コンタクトが取れた販社が247社。
- ・内、導入に向けて、「性能テスト」など実車を使つての導入の検討に入った販社が162社。
- ・内、導入を決定いただき、実際の導入スケジュールが立った販社が69社。
- ・内、すでに販売が始まっていて、製品の納入が始まっている販社が42社。

この新車マーケットにおいても「カンブリア宮殿」効果は出ており、番組をご覧になられた、新車販売会社より、KeePerコーティング導入の問合せが多くなっております。番組でも取り上げられた、磨かないコーティングに興味を持たれており、新車・経年車向けのコーティングとして、KeePerコーティングをラインナップに加えられる店舗が多くなっております。

これらの活動の結果、キーパー製品等関連事業の売上高は64億36百万円（前年同期比10.5%増加）となり、当セグメントにおける営業利益は、内部取引控除後21億18百万円（同20.5%増加）となりました。

### 【キーパーLABO運営事業】

キーパーLABO運営事業においては、半導体不足で新車の製造が遅れ、納車が遅れている中にも関わらず、「ユーチューブを見て」や「SNSでの評価を見て」などで、KeePerの信用度が格段に向上した事もあり、新車へのコーティング施工依頼が多くなっております。また、納車時期が不確定な事もあり、車の買い控えもおきており、それであれば、今乗っている車をキレイにしようという既販車のコーティングも注目を集めております。特にKeePerは、車を磨かなくてもキレイになるので、コストもお客様が納得する価格帯で施工が可能のため、既販車で施工台数も増加しております。コーティングの施工台数を見てみると、EXキーパーは、施工台数が9,375台で前年比60.0%増、売上で約14億46百万円と大幅な実績の上乗せとなりました。ECOダイヤが加わったダイヤモンドキーパーシリーズは、施工台数が38,102台の前年比25.7%増加、売上25億85百万円と大きく伸びております。また、クリスタルキーパーは25.5%増加となり、各キーパーコーティングのメンテナンス需要も高まりをみせ30.3%増となり、全てにおいて高い伸び率となりました。加えて、清潔意欲も引き続き高く、洗車需要も大きく向上し、総来店台数も23.7%増加と大幅に増加しました。そして、平均単価も前期13,492円から今期14,597円と8.0%上昇しています。

人員については、170名の純増を果たせた結果、人時生産性は7,229円/時と前年比:0.3%増に止めることができました。これまで実施した増員やコーティングブースの増設、洗車・仕上げ場の車両の移動に関わる労力を最小限に減らすための工夫、断熱対策などの効果で、高付加価値コーティングが大きく増え、作業効率も上がっているため、人時生産性の高さに比して、スタッフの疲労度は低くなっていますが、今後も、新規出店と既存店の伸びが高い次元で続くことを予測に入れた、更なる人材の採用活動を、良い人材を、需要増に遅れることなく、精力的に行い、高過ぎる人時生産性に達することを極力、防ぎ、お客様の満足に集中できる職場環境の整備に注力をしていきます。

その結果、2022年6月期の1店舗当たりの月間平均売上は、前期597万円から今期746万円となり、前期比25.5%増加と大幅に上がっており、キーパーLABOの運営効率がさらに向上しております。

新店開発においては、9店舗の新規出店となりました。

### 新店の開発状況

2021年9月18日オープン	愛知県蒲郡市 蒲郡店
2021年9月29日オープン	神奈川県茅ヶ崎市 茅ヶ崎店
2022年1月26日オープン	北海道札幌市白石区 白石店
2022年2月11日オープン	神奈川県厚木市 厚木店
2022年4月22日オープン	福岡県福岡市博多区 博多店
2022年5月26日オープン	富山県富山市 富山店
2022年6月24日オープン	群馬県前橋市 前橋店
2022年6月25日オープン	京都府京都市伏見区 京都店
2022年6月29日オープン	山形県山形市 山形店

どの店舗もオープン後から沢山のご来店があり、新店の立ち上がりスピードが驚異的に早まっております。特に2022年4月22日にオープンした「博多店」においては、オープン翌月である5月には、8,806千円となるなど、キーパーラボが、オープン直後から採算が取れる、ビジネスモデルに育ってきました。

そして、今あるニーズをしっかりと応えるべく、今後の更なる需要拡大に備えて、既存店舗の拡大やブースの増設など設備の充実、新ブランディングデザインへの変更を積極的におこないました。

### 既存店の改装と新ブランディングデザインへの変更

愛知県 大府店 リプレイスオープン

埼玉県 浦和美園店 ブース8台増設、新ブランディングへ変更

愛知県 小牧山店 洗車から仕上げまで動かさない3台分の作業場増設

愛知県 守山店 ブース3台増設  
三重県 鈴鹿店 ブース4台増設、新ブランディングへ変更  
埼玉県 草加店 ブース2台増設、新ブランディングへ変更  
広島県 広島東雲店 ブース3台増設、洗い場1台増設  
東京都 高島平店 ブース3台増設、洗車・仕上げ場2台増設

これらの活動の結果、キーパーラボ運営事業の売上高は79億21百万円（前年同期比32.5%増加）となり、当セグメントにおける営業利益は、22億7百万円（同74.7%増加）と大幅な増収増益となりました。このように、キーパーLABO運営事業が、売上高だけでなく、セグメント利益においてもキーパー製品等関連事業を上回る結果となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

当事業年度末における総資産は、前事業年度末に比べ26億71百万円増加し、118億58百万円となりました。これは主として、現金及び預金が12億4百万円増加、建物が5億60百万円増加、土地が4億23百万円増加したこと等によるものです。

## (負債)

当事業年度末における負債合計は、前事業年度末に比べ1億98百万円増加し、38億18百万円となりました。これは主として、未払法人税等が1億43百万円増加、契約負債が1億63百万円増加、借入金が1億23百万円減少したこと等によるものです。

## (純資産)

当事業年度末における純資産は、前事業年度末に比べ24億73百万円増加し、80億39百万円となりました。これは主として、利益剰余金が当期純利益により30億93百万円増加した一方で、配当により5億45百万円減少したこと等によるものです。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金および現金同等物(以下「資金」という)は前事業年度末に比べ12億4百万円増加し27億21百万円(前事業年度末比79.4%増加)となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は32億21百万円(前事業年度比1億27百万円増加)となりました。収入の主な内訳は税引前当期純利益43億23百万円、減価償却費2億88百万円であり、支出の主な内訳は法人税等の支払額11億78百万円であります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は13億49百万円(前事業年度比6億9百万円増加)となりました。収入の主な内訳は有形固定資産の売却による収入57百万円であり、支出の主な内訳は有形固定資産の取得による支出13億47百万円であります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は6億69百万円(前事業年度比20億62百万円減少)となりました。収入の主な内訳は長期借入れによる収入3億40百万円であり、支出の主な内訳は長期借入金の返済による支出4億63百万円、配当金の支払額5億45百万円であります。

## (参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期	2021年6月期	2022年6月期
自己資本比率	62.8	64.9	68.2	60.6	67.8
時価ベースの自己資本比率	244.4	246.8	244.8	861.1	812.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	1.6	0.8	0.9	0.2	0.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ	212.2	207.3	184.0	642.4	821.16

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

(注) 1 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

2 キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。

3 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている負債を対象としています。

#### (4) 今後の見通し

KeePerブランドの確立と普及を目指し、さらに積極的な営業展開を進めていきます。各セグメントの見通しは次の通りです。

#### 新商品 「ECOクリスタルキーパー」 (仮称) を9月より発売開始。

約2年前の2020年2月に販売を開始した「EXキーパー」は、今まで見た事もない透明感を持った極上の「ツヤ」の最高級コーティングとして市場に広がりました。そして、副産物として「雨が降ったら、汚れが雨と一緒に流れてしまう。」そんな特性が強くなり、それがEXキーパーの表面の分子構造に起因していることが判り、それを従来からのダイヤモンドキーパーの表面に付加した「ECOダイヤモンドキーパー(以下、ECOダイヤ)」として2022年2月にデビューさせました。そして、「洗車の回数が激減して楽になる。」の特性が、男性だけではなく、女性ドライバーにも受け入れられて、ECOダイヤにおいては、女性の購買比率が15%→35%まで向上しました。しかし、ECOダイヤは価格が7~9万円であり、コーティングの類としても高い価格設定になっていたため、女性ドライバーに拡がるというまでは行きませんでした。そこで、色々とアンケートを取って見たりして、多くの女性に聞くと、いくら「キレイになって楽になる」というメリットを得られたとしても、「車」というものに費用をかけられるとしたら、2万円台という意識でした。なので、KeePerのベストセラーである1年耐久クリスタルキーパーに、「雨が降れば、まるで洗車をしたようにキレイになって、楽になる。」をメリットとして付加して、何とか2万円台に費用を抑えることが出来れば、多くの普通の女性が受け入れられるサービスになると考えられたのがECO+クリスタルキーパー、略称「ECOクリスタル」(仮称)です。クリスタルキーパーの「メンテナンス無しの1年耐久」という気軽さと、「年に一度の愛車へのプレゼント」というコンセプトでベストセラーの実績、そして、5月26日に放映されたカンブリア宮殿でも、クリスタルキーパーが大きく取り上げられており、これに「ECOクリスタル」(仮称)の「雨が降れば、まるで洗車をしたようにキレイになって、楽になる。」が加わり「ECOクリスタル」(仮称)のコンセプトが実現できれば今度こそ、女性客や軽自動車ユーザーなどに、魅力を感じていただける商品になるかもしれません。

ECOクリスタルは、8月20日より、キーパーLABOで全国一斉に発売を開始し、キーパープロショップやキーパー施工店においても、順次発売を開始いたします。また、新たに加わる新しいコンセプトと共に、新たなマーケットを切り開いていきます。

各セグメントの見通しは次の通りです。

#### キーパー製品等関連事業

従来からのガソリンスタンド業界など車のアフターマーケットでの売上加えて、カーメーカーやカーディーラーなどの新車マーケットである自動車業界拡大、そして、中古車販売店、カーショップ、自動車整備業、板金業などあらゆる自動車関連企業へのコーティングビジネスの拡大を図っていきます。

その為にも、体制の見直しをおこない、新規営業のみをおこなう部隊を「営業部」とし、営業体制を人員数も含め強化しました。さらに既にKeePerを導入している店舗サポート部隊を「サポート部」として、KeePer導入店舗の技術力の維持、向上と共に、導入店舗の成功をサポートする部隊を構築しました。

さらに、車以外へのコーティングビジネスの拡大を図るためにも「特販部」の人員体制の見直しをかけ、自動車コーティングの技術を応用し、非自動車産業へ展開を強化していきます。

この事業において一番の大きな取引先である、ガソリンスタンドを主業とした、キーパープロショップにおいては、9月から新発売をする「ECOクリスタル」(仮称)の展開を強烈に推し進めてまいります。特にこの業界における軸となっているコーティングサービスは、1年耐久のクリスタルキーパーであり、既に持っている技術力で十分に施工できる事もあり、素早く展開が進むものと考えております。また、女性ドライバーが給油に来る機会も多く、「洗車回数が減る」という機能や2万円台の価格にも大きな興味を示されるはずで

9月からは、キーパー技術コンテストの県チャンピオン決定戦、10月には全日本チャンピオン決定戦の開催や、キーパープロショップ用の「Web予約システム」の他3社予約サイトとの連携、12月にはキーパー選手権の開催など、企画が目白押しで予定されております。

そして、新車マーケットにおいての一番の重点活動は、昨年の2021年9月からトヨタ販売社向けの発売を開始した、KeePerボディーコート

始、もしくは実際の導入が確定しております。なので2023年度中には、導入シェアを約50%にあたる120社まで持つべくと共に、KeePerの一番の得意分野でもある、導入店舗の成功に導く為にも、現場と一体となった技術営業の徹底を行っていきます。さらに、先行して導入が進んでいる、スバルディーラーへも新車コーティング付帯率の向上と共に、サービス収益のプラスとなる、樹脂フェンダーキーパーやアラカルト商品などの展開も店舗ごとに進めてまいります。トヨタ・スバル以外の新車自動車メーカーへの営業も引き続き活動しており、KeePerの新車マーケット拡大に向け強力に進めてまいります。

さらに、車以外のサービスでは、スマートフォン用のコーティングやモーターサイクル業界に続いて、自転車業界にも進出しました。今後はさらに陶器メーカー、家電販売業界、船舶、看板業界にも進出し始めており、KeePer製品の販路の拡大への路線を着実に進めております。

最後に、海外事業については、新型コロナウイルス感染拡大もあり、活動がストップしておりましたが、今期より活動を再開いたします。しかし、あくまでも日本市場が優先事項であり、積極的に海外に行き活動する訳ではなく、日本のキーパープロショップと同じように、日本国内での研修をおこない、KeePerの技術を自国に持ち帰って、キーパープロショップとして展開をしていきます。

### キーパーLABO運営事業

キーパーLABO運営事業においては、新規出店を年間12店舗の出店を計画している事に加え、KeePerの需要拡大と共に全国各地に広がっている、キーパープロショップ、カーディーラーへのサポート強化も考え、全国47都道府県に出店をし、全国くまなくキーパーLABOを広げて行きます。

### 今後の新規出店予定

2022年9月移転・拡充オープン予定 東京都八王子市 八王子店（移転）  
 2022年10月オープン予定 福岡県北九州市 小倉南店（仮称）  
 2022年11月オープン予定 埼玉県新座市 新座店（仮称）  
 2022年11月オープン予定 三重県四日市市 四日市南店（仮称）  
 2022年11月オープン予定 東京都世田谷区 用賀店（仮称）

そして、既存店舗の拡大やリプレース、ブースの増設など設備の充実を継続しておこなってまいります。新ブランディングデザインへの変更を今期中には全て終わる予定です。

更に、今後の店舗展開の拡大に向け、店舗部の再構築をいたします。現在では3名の店舗部で、リーシング活動から、店舗プラン・デザイン、オープン準備までおこなってまいりましたが、リーシング部隊と建築部隊の専門部隊を強化し、より良い店舗作りと共に、スムーズな展開が出来るよう構築してまいります。

店舗運営では、既に定着しつつある予約システムは利便性の向上を図ると共に、開発中である『新POSシステム』の導入、新たな企画として『Webお見積もりシステム』の開発も行われております。お客様にとって使い易いやすく、スタッフにとっても効率のよい店を作り続けてまいります。

店舗が拡大していくうえで、組織体制も重要であり、複数の店舗を担当するマネージャー・課長職を中心とした体制作りを構築しております。これが上手く機能するようになれば、更なる店舗拡大が出来るようになります。店舗スタッフとのコミュニケーションを密にとり、お客様ニーズの発掘と人材育成にも力を入れ、技術・知識を軸としたサービスの向上を図ってまいります。

加えて、新卒・中途採用で、181名を計画しています。これまでの採用手法を進化させ、採用活動に関わる人員を増やし、媒体の取捨選択を行い、増強させ、女性の積極雇用、そして、関東においては、企業文化を崩さないことを前提に、社員主体の体制にアルバイトの積極活用を加えてまいります。

以上を踏まえ、今期の見通しを、売上高172億37百万円（前事業年度比20.1%増加）、営業利益54億63百万円（前事業年度比26.3%増加）、経常利益54億63百万円（前事業年度比26.3%増加）、当期純利益は38億5百万円（前事業年度比23.0%増加）の過去最高の増収増益を見込んでおります。

### KeePerのブランディングについて

KeePerのブランディングとして、そして採用活動にも大きな効果を発揮している、「スーパーGT」へは、2022年もス

ポンサーを継続していきます。それ以外のモータースポーツにもスポンサー活動を積極的に広げ、宣伝効果を得る事と車業界との関係強化を考え、行っていきます。そして、9月より発売予定である「ECOクリスタル」(仮称)の新CMを制作中です。まだ発表出来る段階ではありませんが、新たな切り口で、新たなマーケットを切り開いていきます。

#### SDGsの取組について

当社は、持続可能な世界実現に向け国連が定めた、2030年までの国際的な目標であるSDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) の理念に共感し、事業活動と社会貢献活動を通じて目標達成に貢献します。

SDGsの取組として、当社事業を広げる事、そのものが、目標達成に貢献できると考えております。それは、EXキーパー、ダイヤモンドキーパー、クリスタルキーパーなどのキーパーコーティングは、強い撥水力(水はじき力)によって、普通の雨が降ると、雨がその撥水力によって弾かれるだけでなく、KeePerコーティングによって砂などの汚れが、塗装にくっついていないので、雨の中に拡散して、雨と一緒にはじかれて落ちてしまうのです。だから、KeePerコーティングをされたユーザーは、みなさん「洗車をする回数がものすごく減った。」と、口を揃えておっしゃいます。

なので、雨が降ると車がキレイになってしまう訳で、普通、雨が降ると車が汚れるという常識と正反対の現象が起こります。KeePerコーティングをすると「洗車の回数が減る。」のは、手間と時間の節減になるのと同時に、真水の節約にもつながりますし、洗剤使用の節減にも繋がります。

さらに、車がキレイな状態が続く事で、車の価値を守る事も出来、年々長くなっている、車齢と相まって、車を大切にし、車を長く乗るようになって、車の製造によって発生するCO2の節減になり、持続可能なカーライフプランの提供にも繋がります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は日本基準に基づき財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRS (国際財務報告基準) の適用に関しましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当事業年度 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,517,132	2,721,463
受取手形	166,410	168,918
売掛金	880,552	1,157,351
商品	731,453	706,006
貯蔵品	45,626	68,489
前払費用	190,139	189,880
その他	11,178	17,324
貸倒引当金	△313	△265
流動資産合計	3,542,179	5,029,168
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,566,276	3,127,116
構築物（純額）	173,511	201,894
機械及び装置（純額）	80,178	66,082
車両運搬具（純額）	34,095	22,292
工具、器具及び備品（純額）	125,891	130,607
土地	1,593,759	2,016,836
建設仮勘定	15,058	63,609
有形固定資産合計	4,588,770	5,628,439
無形固定資産		
ソフトウェア	37,191	46,495
その他	60,258	61,048
無形固定資産合計	97,450	107,543
投資その他の資産		
投資有価証券	19,578	19,388
関係会社株式	1,000	1,000
破産更生債権等	276	13
長期前払費用	44,841	36,733
敷金及び保証金	340,436	364,218
建設協力金	281,036	291,760
保険積立金	11,868	11,460
繰延税金資産	259,786	368,995
その他	10	10
貸倒引当金	△276	△13
投資その他の資産合計	958,557	1,093,566
固定資産合計	5,644,778	6,829,550
資産合計	9,186,958	11,858,718

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当事業年度 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	468,183	359,263
1年内返済予定の長期借入金	331,332	379,936
未払金	549,923	422,871
未払法人税等	780,702	923,770
未払費用	194,763	312,764
賞与引当金	37,390	47,169
契約負債	-	163,526
その他	125,368	155,884
流動負債合計	2,487,663	2,765,187
固定負債		
長期借入金	331,936	160,000
退職給付引当金	308,871	370,913
役員退職慰労引当金	255,593	256,683
資産除去債務	232,222	262,025
その他	4,043	4,043
固定負債合計	1,132,667	1,053,665
負債合計	3,620,330	3,818,853
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,347,557	1,347,557
資本剰余金		
資本準備金	1,007,224	1,007,224
資本剰余金合計	1,007,224	1,007,224
利益剰余金		
利益準備金	4,931	4,931
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	5,392,781	7,866,881
利益剰余金合計	5,397,712	7,871,812
自己株式	△2,188,286	△2,188,728
株主資本合計	5,564,207	8,037,865
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,419	1,999
評価・換算差額等合計	2,419	1,999
純資産合計	5,566,627	8,039,865
負債純資産合計	9,186,958	11,858,718

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年 7 月 1 日 至 2021年 6 月 30 日)	当事業年度 (自 2021年 7 月 1 日 至 2022年 6 月 30 日)
<b>売上高</b>		
商品売上高	5,822,743	6,436,501
サービス売上高	5,978,492	7,921,713
売上高合計	11,801,236	14,358,214
<b>売上原価</b>		
商品売上原価		
商品期首棚卸高	561,807	731,453
当期商品仕入高	2,681,170	2,696,582
合計	3,242,977	3,428,036
商品期末棚卸高	731,453	706,006
売上原価合計	2,511,523	2,722,030
売上総利益	9,289,712	11,636,184
<b>販売費及び一般管理費</b>		
役員報酬	192,193	211,740
給料及び手当	2,321,670	2,746,076
賞与	447,609	634,356
退職給付費用	62,416	71,880
賞与引当金繰入額	37,390	47,169
役員退職慰労引当金繰入額	12,812	9,210
法定福利費	421,248	531,640
福利厚生費	27,411	31,622
旅費及び交通費	222,645	277,987
通信費	38,777	42,251
減価償却費	280,584	288,987
賃借料	726,952	797,228
保険料	12,249	14,132
水道光熱費	127,960	162,117
消耗品費	171,123	199,983
租税公課	125,859	148,724
試験研究費	53,951	36,754
運賃及び荷造費	147,769	157,011
事務用品費	12,117	13,918
広告宣伝費	391,056	377,136
支払手数料	139,566	191,164
貸倒引当金繰入額	76	△48
車両費	85,033	105,588
業務委託費	87,289	106,353
リース料	64	64
その他	122,480	106,503
販売費及び一般管理費合計	6,268,312	7,309,557
営業利益	3,021,400	4,326,627

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年7月1日 至 2021年6月30日)	当事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)
営業外収益		
受取利息	1,410	1,371
受取配当金	463	463
為替差益	257	-
受取手数料	4,290	6,332
その他	1,835	3,270
営業外収益合計	8,257	11,436
営業外費用		
支払利息	4,815	3,923
為替差損	-	8,390
貸倒引当金繰入額	-	13
雑損失	1,979	40
営業外費用合計	6,795	12,367
経常利益	3,022,862	4,325,696
特別利益		
固定資産売却益	1,115	5,454
特別利益合計	1,115	5,454
特別損失		
固定資産除売却損	3,619	2,334
減損損失	26,387	5,137
特別損失合計	30,007	7,472
税引前当期純利益	2,993,971	4,323,678
法人税、住民税及び事業税	923,194	1,306,353
法人税等調整額	△62,421	△76,658
法人税等合計	860,772	1,229,694
当期純利益	2,133,198	3,093,984

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自2020年7月1日 至2021年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,347,557	1,007,224	1,007,224	4,931	3,471,687	3,476,618
会計方針の変更による累積的影響額						
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,347,557	1,007,224	1,007,224	4,931	3,471,687	3,476,618
当期変動額						
剰余金の配当					△212,104	△212,104
当期純利益					2,133,198	2,133,198
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	1,921,094	1,921,094
当期末残高	1,347,557	1,007,224	1,007,224	4,931	5,392,781	5,397,712

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	△142	5,831,257	1,735	1,735	5,832,993
会計方針の変更による累積的影響額		-			-
会計方針の変更を反映した当期首残高	△142	5,831,257	1,735	1,735	5,832,993
当期変動額					
剰余金の配当		△212,104			△212,104
当期純利益		2,133,198			2,133,198
自己株式の取得	△2,188,143	△2,188,143			△2,188,143
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			684	684	684
当期変動額合計	△2,188,143	△267,049	684	684	△266,365
当期末残高	△2,188,286	5,564,207	2,419	2,419	5,566,627

当事業年度(自2021年7月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,347,557	1,007,224	1,007,224	4,931	5,392,781	5,397,712
会計方針の変更による累積的影響額					△74,275	△74,275
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,347,557	1,007,224	1,007,224	4,931	5,318,506	5,323,437
当期変動額						
剰余金の配当					△545,608	△545,608
当期純利益					3,093,984	3,093,984
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	2,548,375	2,548,375
当期末残高	1,347,557	1,007,224	1,007,224	4,931	7,866,881	7,871,812

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	△2,188,286	5,564,207	2,419	2,419	5,566,627
会計方針の変更による累積的影響額		△74,275			△74,275
会計方針の変更を反映した当期首残高	△2,188,286	5,489,932	2,419	2,419	5,492,352
当期変動額					
剰余金の配当		△545,608			△545,608
当期純利益		3,093,984			3,093,984
自己株式の取得	△442	△442			△442
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△420	△420	△420
当期変動額合計	△442	2,547,932	△420	△420	2,547,512
当期末残高	△2,188,728	8,037,865	1,999	1,999	8,039,865

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年7月1日 至 2021年6月30日)	当事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	2,993,971	4,323,678
減価償却費	280,584	288,987
減損損失	26,387	5,137
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	76	△311
契約負債の増減額 (△は減少)	-	56,886
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	45,192	62,042
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	12,812	1,089
受取利息及び受取配当金	△1,873	△1,834
為替差損益 (△は益)	△1,080	△1,727
支払利息	4,815	3,923
固定資産除売却損益 (△は益)	2,504	△3,119
売上債権の増減額 (△は増加)	△261,958	△279,307
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△183,547	2,584
仕入債務の増減額 (△は減少)	181,320	△108,919
前払費用の増減額 (△は増加)	41,598	259
未払金の増減額 (△は減少)	261,594	△124,572
未払費用の増減額 (△は減少)	41,697	118,000
その他	69,357	59,564
小計	3,513,453	4,402,360
利息及び配当金の受取額	1,870	1,845
利息の支払額	△4,815	△3,923
法人税等の支払額	△416,866	△1,178,852
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,093,641	3,221,430
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
関係会社株式の取得による支出	△1,000	-
有形固定資産の取得による支出	△624,807	△1,347,242
有形固定資産の売却による収入	1,181	57,868
無形固定資産の取得による支出	△39,638	△29,467
貸付けによる支出	-	△200
貸付金の回収による収入	50	-
敷金及び保証金の差入による支出	△18,022	△27,114
敷金及び保証金の回収による収入	638	3,332
建設協力金の支払による支出	△55,000	△31,900
その他	△3,358	25,279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△739,957	△1,349,444
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	340,000
長期借入金の返済による支出	△331,332	△463,332
自己株式の取得による支出	△2,188,143	△442
配当金の支払額	△212,104	△545,608
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,731,579	△669,383
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,080	1,727
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△376,814	1,204,330
現金及び現金同等物の期首残高	1,893,947	1,517,132
現金及び現金同等物の期末残高	1,517,132	2,721,463

## (5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、顧客への販売に伴い付与するポイントについて、従来は販売時に収益を認識し、顧客のポイント利用時に売上の減額処理を行っていましたが、付与したポイントを履行義務として識別し、将来の失効見込み等を考慮して算定した独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当事業年度の売上高、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ35,317千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は74,275千円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

## 1 報告セグメントの概要

## (1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の分配の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は販売先別にセグメントを位置付け、一般顧客向け、事業者向けに包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

従って当社は販売先別のセグメントから構成されており「キーパー製品等関連事業」「キーパーLABO運営事業」の2つを報告セグメントとしております。

## (2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「キーパー製品等関連事業」は自動車のコーティング用ケミカル製品をはじめとした、道具機器類の開発・製造、販売を行っております。「キーパーLABO運営事業」は一般のカー・ユーザー向けに自動車のコーティングを中心とした「車の美装を提供する店舗」をコンセプトとして「キーパーLABO」店舗を運営しております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために採用される会計処理の原則及び手続に準拠した方法であります。

報告セグメントごとの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格等を勘案して決定しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前事業年度(自 2020年7月1日 至 2021年6月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額	財務諸表計上額
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,822,743	5,978,492	11,801,236	—	11,801,236
セグメント間の内部売上高又は振替高	628,638	—	628,638	△628,638	—
計	6,451,382	5,978,492	12,429,874	△628,638	11,801,236
セグメント利益	1,758,014	1,263,386	3,021,400	—	3,021,400
セグメント資産	1,947,164	4,884,671	6,831,835	2,355,122	9,186,958
その他の項目					
減価償却費	79,467	201,116	280,584	—	280,584
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	34,381	691,443	725,825	57,333	783,158

(注1) セグメント間の内部売上は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業部に対するものです。

(注2) セグメント資産の調整額は報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

(注3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社管理部門における取得額であります。

当事業年度(自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	財務諸表計上額
	キーパー製品等 関連事業	キーパーLABO 運営事業	計		
売上高					
札幌営業所	320,777	—	320,777	—	320,777
仙台営業所	740,726	—	740,726	—	740,726
東京営業所	1,253,973	—	1,253,973	—	1,253,973
横浜営業所	575,353	—	575,353	—	575,353
名古屋営業所	1,389,982	—	1,389,982	—	1,389,982
大阪営業所	704,719	—	704,719	—	704,719
広島営業所	648,325	—	648,325	—	648,325
福岡営業所	802,643	—	802,643	—	802,643
東日本	—	4,127,555	4,127,555	—	4,127,555
西日本	—	3,794,158	3,794,158	—	3,794,158
顧客との契約から生 じる収益	6,436,501	7,921,713	14,358,214	—	14,358,214
外部顧客への売上高	6,436,501	7,921,713	14,358,214	—	14,358,214
セグメント間の内部 売上高又は振替高	829,993	—	829,993	△829,993	—
計	7,266,494	7,921,713	15,188,208	△829,993	14,358,214
セグメント利益	2,118,869	2,207,757	4,326,627	—	4,326,627
セグメント資産	2,049,642	6,118,675	8,168,317	3,690,400	11,858,718
その他の項目					
減価償却費	69,750	219,237	288,987	—	288,987
有形固定資産及び 無形固定資産の増加 額	77,578	1,253,672	1,331,251	70,684	1,401,935

(注1) セグメント間の内部売上は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業部に対するものです。

(注2) セグメント資産の調整額は報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

(注3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社管理部門における取得額であります。

## 4 報告セグメントの変更等に関する事項

## ①セグメント利益又は損失の測定方法の変更

キーパー製品等関連事業における新車カーメーカーへの自動車のコーティング用ケミカル製品をはじめとした、道具機器類の開発・製造、販売が増加基調にあり、今後、顧客獲得戦略の多様化及び売上高構成比率の変化が見込まれるため、当事業年度より、間接費等についての配賦方法の見直しを実施しました。これは事業の実態を適切に反映させ、セグメントの損益情報をより適正に開示するために実施したものであります。

なお、前事業年度のセグメント情報は、当事業年度の報告セグメントの利益又は損失の算定方法に基づき作成したものを開示しております。

## ②会計方針の変更

(会計方針の変更)に記載のとおり、当事業年度の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当事業年度は、「キーパーLABO運営事業」の売上高が35,317千円減少し、セグメント利益が35,317千円減少しております。

## (持分法損益等)

当社は重要な関連会社を有していないため、該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 2020年7月1日 至 2021年6月30日)	当事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)
1株当たり純資産額	204.05円	294.71円
1株当たり当期純利益金額	75.65円	113.41円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	—	—

(注) 1. 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2020年7月1日 至 2021年6月30日)	当事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	2,133,198	3,093,984
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	2,133,198	3,093,984
普通株式の期中平均株式数(株)	28,198,514	27,280,409

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。